

[成果情報名]イチゴ「こいのか」の採苗方法と育苗期の子苗の不時出蕾の発生

[要約]イチゴ品種「こいのか」の育苗期の不時出蕾は、親株を年内に定植した1次子苗で発生率が高くなるが、親株を年明けに定植すると発生率は低くなる。

[キーワード]イチゴ、「こいのか」、親株、育苗、不時出蕾

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・野菜研究室

[代表連絡先]（代表）0957-26-3330

[区分]野菜

[分類]指導

[作成年度]2012年度

[背景・ねらい]

イチゴ品種「こいのか」の育苗期の不時出蕾は、苗の生育遅延や心止まり株の発生を引き起こすため、花房の除去作業に労力が必要になるとともに、均質な苗の生産に支障を来す。そこで、採苗方法と子苗の不時出蕾の発生について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 親株の芽数及びランナー発生本数は、親株を年内に定植するといずれも多く、その割合は、親株を年明けに定植した場合の約150%及び約180%である（表1）。
2. 親株を年明けに定植した場合の採苗株数は、親株を年内に定植した場合の3分の2程度となる（表2）。
3. 子苗の不時出蕾株率は、親株を年内に定植した1次子苗で発生率が高いが、親株を年明けに定植した1次子苗での発生率は低い。2次子苗の不時出蕾は、親株の定植時期に関わらず発生率は低い（表2、図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 周年ビニールを被覆した雨よけ高設育苗施設下における成績である。
2. 親株を年内に定植した場合は2次子苗以降を採苗する、または親株を年明けに定植することで不時出蕾株の発生を抑制することができるが、いずれの場合も親株の定植株数を増やし、ランナー切り離し時期が遅延しないよう留意する。
3. 子苗の不時出蕾の発生には年次差がある。

[具体的データ]

表1 親株の芽数及びランナー発生本数(2011年、芽、本/株)

調査項目	区名/調査日	3月24日	4月7日	4月21日	5月7日	5月21日
芽数	年内定植	3.1	3.2	3.3	4.2	4.1
	年明け定植	1.3	1.6	1.8	2.4	2.7
ランナー数	年内定植	3.0	5.0	8.7	12.4	14.8
	年明け定植	0.0	0.6	2.8	6.3	8.3

表2 子苗の採苗株数、不時出蕾株数及び不時出蕾株率(2011年)

区名	子苗の次数	採苗株数(株)	不時出蕾株数(株)	不時出蕾株率(%)
年内定植	1次子苗	103	57	55.3
	2次子苗	95	2	2.1
	計	198	59	29.8
年明け定植	1次子苗	69	7	10.1
	2次子苗	58	0	0.0
	計	127	7	5.5

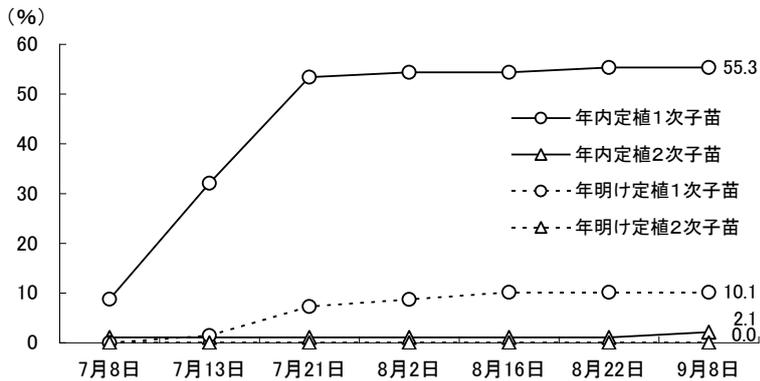


図1 子苗の不時出蕾発生株率の推移(2011年)

耕種概要

- (1) 区の構成 年内に親株を定植(年内定植)及び年明けに親株を定植(年明け定植)
- (2) 栽培様式 雨よけ、高設育苗、親株は3株植え/プランター
- (3) 親株定植及び施肥 年内定植: 定植 2010年11月10日、施肥 2010年11月10日にエコロング424(70日タイプ、N-14%)を10g/株、2011年2月15日にIB化成S1号(N-10%)を5粒/株、4月21日にエコロング424を10g/株施用
年明け定植: 定植 2011年2月15日、施肥 2011年2月15日及び3月25日にIB化成S1号を5粒/株、4月21日にエコロング424を10g/株施用
- (4) 子苗管理 鉢受け: 年内定植 2011年4月25日～、年明け定植 2011年5月13日～、ランナー切り離し: 年内定植、年明け定植ともに6月7日、子苗施肥: 年内定植、年明け定植ともに6月7日に株当たりポット錠[®]ジャップ P7(N-7%)を2錠、7月3日にポット錠[®]ジャップ P25(N-6%)を1錠施用
- (5) 採苗方法 年内定植、年明け定植ともに親株として12株(4プランター)を定植し、1次子苗及び2次子苗を鉢受けし、年内定植の子苗切り離し予定時期に合わせ採苗を終了。採苗時の子苗の葉数は、2～3葉。

[その他]

研究課題名: イチゴ新品種「こいのか(高良6号)」の生産安定技術確立
 予算区分: 県単
 研究期間: 2009～2012年
 研究担当者: 野田和也